

# Stage Up

ステージ・アップ  
通巻.191  
2013年4月1日  
(隔月発行)

ホームページからも  
ご覧いただけます!



切り絵シリーズ「川崎にある風景から」①

「春爛漫」 二ヶ領用水 宿河原にて 青木幸夫

## もくじ

- 2 まち・ひと・多面体
- 3 シニアのパレット
- 4 特集「水辺の楽校」
- 6 施設めぐり
- 7 情報ポケット

## 誌上ギャラリー

この作品は市中を流れる二ヶ領用水の満開の桜を切り絵で表現したものです。

JR南武線宿河原駅付近の約2kmにわたる両岸には、地元の人たちが丹精込めて守り育てている4百本以上の桜が、毎年、見事に花を咲かせます。シーズンには花を愛(め)でる市内外のたくさんの人たちで賑(にぎ)わいます。春爛漫(らんまん)、時のたつのを忘れる景色です。

※このシリーズでは、趣味で切り絵制作を続けている作者が川崎にちなんだテーマで制作した作品を掲載します。



発行・(公財)川崎市生涯学習財団

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1  
TEL 044(733)5560(代) / FAX 044(739)0085

<http://www.kpal.or.jp/>  
ステージ・アップ TEL 044(733) 5811  
E-メール: [stage-up@kpal.or.jp](mailto:stage-up@kpal.or.jp)

当財団は市民の主体的な学びと活動を支援するための諸事業を推進しています。

# まち・ひと・多面体



## LET'S国際ボランティア交流会

～地域に根づいた国際交流活動を通して～



LET'Sは1990年、市立宮前平中学校帰国生徒の保護者OB会有志によって設立されました。海外生活を経験した人たちが、ボランティアとして地域に根づいた国際交流活動に取り組んできたのです。以来20余年、様々な機会を通して外国人市民との交流・支援活動を続けています。

**設立まで** 1980年代、海外に赴任する日本人が急増し、赴任地から帰国してくる児童生徒も増え続けました。当時はまだ、帰国してきた子どもたちにも、それを受け入れる学校・学級・地域にも戸惑いが多く見られました。宮前平中学校帰国子女保護者会で出会った人たちは、その輪を市内に広げる必要性を感じました。それが、LET'Sの設立につながったのです。帰国児童生徒や外国人の支援、地域の国際理解の推進がLET'Sの主たる目的でした。

**日本語サロン** 帰国児童生徒についての理解、公私立学校の受け入れ態勢は徐々に広がっています。今のLET'Sの活動の中心は、特にニューカマーと言われる人たちが、日本語や日本での生活などに苦勞をし



ている外国人の支援と交流活動です。取材にお邪魔した日も、9人のボランティアスタッフがコスタリカやメキシコ、中国・台湾の人たち11人と組んで学び合っていました。年に1・2回は“アウティング”、県や国の施設などを皆で訪ねるそうです。このサロンで学んだ人の中には、民族文化講師ふれあい事業の講師や各学校の日本語指導等協力者になる人もいます。

**レインボークラブ** LET'Sでは内外の親子が集える機会を作ろうと、レインボークラブという活動もしています。この日は宮崎こども文化センターでミニコンサート。30組近い親子が集まり、女性三人組“アンサンブル オカリナhana”のオカリナとクラリネットの演奏を楽しみました。乳幼児も音楽が大好き、体を揺すり手拍子をしながらかわいさ顔いっぱい演奏を楽しんでいました。午後にはわくわくプラザでも演奏会をするそうです。LET'Sの活動は川崎の地にしっかりと根づいています。



■連絡先：代表 小倉敬子 ☎ 044-853-2140



## 「小田が好き!」の音が響くまち ～小田まちづくりクラブ～



川崎区では、1994年から3年かけて『川崎区づくり白書』を制作しました。これは、区民が区民の視点で区の将来像とその実現のための提案をまとめたものです。この白書をもとに、1998年、地域の住民でまちづくりを担うグループ『まちづくりクラブ』が区内10地域で活動を始め、町内会や地域で活動している様々な団体・グループの力が一つに集結されることになりました。今回は、“小田まちづくりクラブ”の活動に同行して取材をしました。

小田地区は以前から町内会同士のつながりがあり、地域活動も活発だったと聞きます。それでもグループ単体の活動には限界があり、また、核家族化やマンションが増えることなどで住民同士のつながりが薄くなってきているところでした。



クラブの活動としてまず初めに行ったのは、自分たちの目で地域を見て回ることでした。その中で、危険な道路の問題や小田公園が荒れていることなど、地域にとって切実な問題が浮き彫りになってきました。様々な取組を進める中で2003年に『小田未来プ

ラン-小田が大好き!』をまとめ、10年後の将来像を見据えて活動計画を立てました。「小田公園を地域の憩いの場にしたい」との思いで、自分たちの努力で解決できることをしながら、行政とも話し合いを重ね、2011年にはリフレッシュ工事が着工されました。

昨年8月、第1期リフレッシュ工事を終えた小田公園で行われた「夏のお楽しみ会」には、たくさんの方が集まりました。京町中学校の生徒十数人も参加、活気あふれる会になりました。「公園がきれいになって明るくなったね」という声も聞かれ、小田まちづくりクラブ名物“ジャンボ紙相撲”の前では、笑い声が響いていました。



小田未来プランをまとめて今年でちょうど10年、活動が軌道に乗ってきたところです。しかし、クラブ員の平均年齢も上がり、活動の見直しが必要となってきたとのこと、地域に根付いた活動が新たなステージに向けてどのように展開されるのか、今後が楽しみです。

■問合せ：川崎区まちづくりクラブ事務局 ☎ 201-3127

# 親子で、来て、見て、考える ～学童疎開体験バスツアーの取組～

太平洋戦争が激化する中、昭和19年(1944年)に学童疎開が実施されました。川崎市でも国民学校35校中24校がその対象となり、初等科の3～6年生7,000余名が疎開地へ行き、終戦のときまで疎開生活を送りました。

川崎市平和館・(財)川崎教職員会館・「親子で、来て、見て、考える平和推進事業」実行委員会では、毎年『学童疎開体験バスツアー』を主催し、ゆかりの地を案内しながら、小中学生と保護者に学童疎開の貴重な体験を伝え、平和の大切さについて考えています。貴重なバスツアーに同行取材させていただきました。

夏休み真っただ中の8月4日(土)、朝9時、学童疎開体験ツアーバスは川崎市平和館から出発しました。

## 川崎大空襲

往路のバスで初めに貴重なお話をして下さったのは元中学校教員の横川郁子さんでした。

川崎は昭和17年に米空軍から最初の空襲を受けて以来、約20回に及ぶ空襲に見舞われています。その最大のが20年4月15日の大空襲です。約200機のB29が10,000発を超える焼夷弾や千数百発の爆弾を投下しました。川崎市資料によると罹災人口は154,426人、死者1,520人、負傷者も8,759人いたとのことでした。

横川さんは当時女学校の生徒でしたが、毎日空腹に耐えながら東芝の工場で勤務奉仕に励んでいました。大空襲の夜は川崎の空が真っ赤に燃えていました。油脂焼夷弾の光に照らされて、爆弾がゴマのように降り注いでいたのが見えました。炸裂する爆弾の合間を縫って逃げましたが、多くの方が機銃掃射の犠牲になっていました。町は津波に襲われたようで、どこが道か、どこの街か分からなかったほどでした。「今の幸せ、このツアーに元気に参加できていることに感謝しましょう」と訴えられました。



## 大山区学童疎開

川崎大空襲の前年の昭和19年、国の決定で学童疎開が始まりました。

児童はできるだけ親類等の縁故を頼って疎開することが義務付けられました。そうした縁故を持たない児童は、川崎北部や中郡、津久井郡方面に疎開しました。



元中学校教員の黒田俊夫さんは、当時宮前国民学校の4年生、大山区に9校、約2,600人の児童とともに疎開しました。黒田さんはバス車中や大山阿夫利(あふり)神社の境内で、疎開地での生活を、生々しく語ってくださいました。

輝け杉の子像

宿舎にあてられた旅館に約40人の児童が疎開、引率の先生は1人だったそうです。6時

起床、9時から勉強が始まりましたが、教科書も机もノートも鉛筆もなく、寝泊りし、生活する部屋が教室になりました。その授業もできたりできなかったりでした。燃料の薪(まき)集め、川での洗濯、食料の運搬など、生き抜くためにやるのが沢山ありました。黒田さんは「山中で野イチゴやブドウ、ノビルを採って口にするなど、まるで山猿のような生活でした」と笑いながら語っ



大山の旧道で当時の話を聞いていました。風呂は週1回、無数のノミやシラミに悩まされたことも忘れられない記憶です。阿夫利神社の境内には川崎市学童疎開四十周年記念像「輝け杉の子」がたっています。(昭和60年圓鍔元規作 生田緑地内枳形山山頂にも同じ像があります)

## 忘れられないこと、忘れてはならないこと

大山区の疎開生活でもっとも悲しい出来事は学童が投下された爆弾の犠牲になったことでしょう。当時国民学校訓導(教諭のこと)だった中村豊子さんが、被害に遭った吉川(きっかわ)旅館の前庭で手製の図を示しながら話してくださいました。



川崎空襲のひと月後の20年5月19日、大山にも爆撃機が来て7発の爆弾を落としました。旅館の2階で詰め将棋をしていた児童、米須君が爆弾の破片の直撃を受けて即死したのです。中村先生が駆けつけた現場は悲惨な状態でした。急を聞いて川崎から飛んできたご両親、中でも母親は「痛かったろう。お腹がすいただろう」と叫びながら着物の胸を広げ、米須君の亡骸(なきがら)に乳を吸わせようとしたそうです。中村さんはその時の情景が今も忘れられないと涙声で語られました。そして「皆さん、感謝の心と笑顔を忘れずに元気に生活してください」と結ばれました。

3人のボランティアの貴重なお話、この体験ツアーがこれからも続いてくれるとよいなと思いました。

■問合せ先 (財)川崎教職員会館

☎ 044-433-9101

# 水辺の楽校とは！

現代の子どもたちは“屋外で遊ばない”“集団で遊ばない”、したがって自然体験や生活体験が不足するといった傾向にあると言われます。そんな中、「総合的な学習の時間」の取組など背景に、週末や夏休みなどの休日を生かした子どもの自然体験活動に対する取組が進められています。

**水辺の楽校**とは国土交通省が文部科学省、環境省と連携して進めているプロジェクトで、水辺をフィールドに、子どもたちが川に親しむ自然体験を推進しようとするものです。市民を活動の主体に、全国で300校近く、多摩川流域では19校が活動中、もしくは準備中です。

川崎市内では**かわさき水辺の楽校**（多摩区宿河原）、**とどろき水辺の楽校**（中原区等々力）、**だいにし水辺の楽校**（川崎市大師河原）の3楽校が、それぞれ楽しい企画を満載にして活発な活動を展開しています。

地元の熱心なボランティアに支えられているそれぞれの“楽校”を訪ねました。



# 水辺の楽校



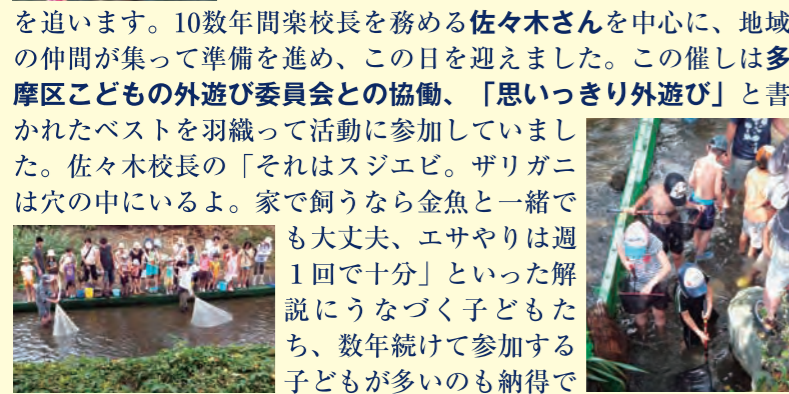
## かわさき水辺の楽校

佐々木梅吉校長

多摩区登戸の宿河原堰近くにある**せせらぎ館**を本拠地とするかわさき水辺の楽校は、**4月の開校式**を皮切りに多彩な活動を展開しています。



8月は**奥多摩のサマーキャンプ**に続いて**二ヶ領用水魚つかみ**を行いました。せせらぎ館近くの**舟島人道橋**（ふなしまじんどうきょう）下の二ヶ領用水を約20mにわたって仕切り、そこにコイやフナやハヤを約1,000匹放ちました。猛暑の夏でしたが兩岸を桜の葉影におおわれた川の日陰は心地よく、約160人の親子が夢中になって川魚を追います。10数年間楽校長を務める**佐々木さん**を中心に、地域の仲間が集って準備を進め、この日を迎えました。この催しは**多摩区こどもの外遊び委員会との協働、「思いっきり外遊び」と**書かれたベストを羽織って活動に参加していました。佐々木校長の「それはスジエビ。ザリガニは穴の中にいるよ。家で飼うなら金魚と一緒に遊ぶのも大丈夫、エサやりは週1回で十分」といった解説にうなづく子どもたち、数年続けて参加する子どもが多いのも納得できます。



最後は**川崎河川漁業協同組合の投網名人**の実演、投げ上げられた投網には驚くほどたくさんの魚がかかっていました。豊漁に子どもも大人も驚嘆の声を上げていました。夏休み最後のよい思い出になったことでしょう。

9月には多摩川の土手で**植物調査**をしました。これは「母なる川」多摩川の魅力を市民に発信する**かわさき多摩川博2012事業**の一環、GPS（全地球測位システム）を使った植生調査として春夏秋に行うもの。宙と緑の科学館の**永井一雄さん**の助言を受けながら調査対象となる花の開花状況を調べました。楽校の幅広く充実した活動にふれた半日でした。

■問合せ：佐々木梅吉 044-911-2154



## とどろき水辺の楽校

菅田木一校長

とどろき水辺の楽校は2002年に活動を始めました。24年度は10周年記念の年、**開校式**が行われた4月30日、等々力緑地の裏手にある多摩川の河川敷を訪ねました。



この日は振替休日とあって、子どもたちがたくさん集まりました。プログラムは川崎出身の**3姉妹ユニット“ちょっきんず”**による「**中原防災紙芝居**」からスタート、地震や津波に対する備えを確認し合います。数十人の老若男女が真剣に目と耳を向けていました。

参加者全員によるラジオ体操の後はいくつかのグループに分かれてこの日のメインイベントです。カントウタンポポやフグリの花など、土手に咲く花の解説をするのは**酒井昭子さんと古屋のり子さん**。お二人とも水辺の植物に詳しい大ベテランボランティアです。用意されたライフジャケットを身に付け、草むらに分け入って水辺に向かった班もあります。小魚を追いつまむ網の使い方を学ぶのです。網に子持ちの小エビがかかります。石を裏返すと鯉の卵がついています。子どもたちの歓声が上がりました。

6月には**草木染め体験**が行われました。あらかじめ河原で摘んで煮出しておいたヨモギやイタドリを染料にして白布を染め上げます。思い思いのデザインで染め上げた布は淡い黄色や黄緑色。天日に干す人たちの顔が自然とほころびます。

とどろき水辺の楽校の活動内容は盛りだくさん。**多摩川野焼き土器づくりの会**の活動に参加して取り組む**縄文土器作りや野鳥観察会、凧（たこ）揚げや昔遊び、カヌー教室**など、年間を通してたくさんの活動を展開しています。

毎年7月には山梨県小菅村で**多摩川源流体験キャンプ**を実施しており、**溪流登り・川遊び・農業体験**など、1泊2日の貴重な体験学習にも参加できます。

■問合せ：鈴木真智子 090-5814-9604



## だいにし水辺の楽校

仲子先一郎校長

7月下旬の土曜日、東京湾から2km程上った多摩川下流、大師橋の下で**干潟観察会**がありました。雨上がりの朝、参加したのは子どもたち15人ほどとその保護者。大師河原干潟館事務局の**佐川麻理子さん**から事前指導を受けた後、早速歩いて5分程ヨシを分け入って干潟へ進みます。足元のぬかるみに目を凝らすと1~2cmほどの小穴が無数にありました。そこからチゴガニが姿を見せて、いっせいにウェービング（ハサミを上下させる求愛行動）をしていました。子どもたちはもちろんのこと、保護者も興味津々のようです。川に網を入れると小魚や小エビがかかりました。シジミ貝の一種、ヤマトシジミもたくさんいるようです。川崎市内にこんな干潟があるということを知り、とてもうれしくなりました。



8月には水防センターで**いかだづくりとロープワーク教室**がありました。朝からの悪天候にもかかわらず、この日を楽しみにしていた親子連れが集まり、**もやい結び**など、人の命を守るロープワークに熱心に取り組みました。ベッドの廃材や大型タイヤで作ったいかだは、**エコカップいかだ下り**に使うそうです。**仲子校長**は長く地元の消防団活動にも携わった人、ロープワークの大切さを熱心に伝えていました。



■問合せ：佐川麻理子 090-2492-5480



だいにし水辺の楽校の基地 大師河原水防センター



## 3楽校の合同活動

3つの楽校は、市とNPO法人多摩川エコミュージアムが毎年主催している「**多摩川博協賛 エコ★カップいかだ下り**」にそろって参加しています。9月2日、断続的に強い雨が降る宿河原堰下流を、ペットボトルや空き缶、発泡スチロール、竹や廃材などで思い思いに工夫して作ったいかだで多摩川を下りました。この日の参加は20チーム、家族での参加、職場の仲間での参加、同じ学童ホールに通う仲間での参加など、多彩なチーム構成の中には3つの水辺の楽校関係者のチームの姿もありました。たくさんのボランティアに見守られて楽しむ子どもたちの生き生きとした表情、大人たちの童心に帰った笑顔が印象的でした。



■問合せ：建設緑政局 多摩川施策推進課 TEL 044-200-2268

写真左：かわさき水辺の楽校  
中：とどろき水辺の楽校  
右：だいにし水辺の楽校

# 施設めぐり

本財団が管理運営する施設のご紹介

## 青少年の家

東急田園都市線宮崎台駅下車徒歩12分

☎ 044-888-3588

### ～夏期施設の利用について!!～

学校等の夏期休業期間（7/21～8/31）を生かして、自主性や豊かな情操を身につけ、心身ともに健全な青少年を育成するために、川崎市青少年の家で団体宿泊をしてみたいか、がでしょう。日常と異なる団体生活体験や研修等のプログラムに取り組んでみませんか。

**〈利用対象〉** 川崎市内の青少年団体・学校・教育委員会が認めた団体。（指導者に引率され、具体的な利用計画があること）

**〈利用内容〉** 団体宿泊利用。

**〈申込方法〉** 3月末ごろ配布される『夏期利用仮申込書』に記入のうえ、川崎市青少年の家に直接持参、または、郵送してください。

**〈申込締切〉** 4月30日（火）17:00必着

**〈その他〉** ① 5月12日（日）10:00～12:30に日程調整会を行います。申込団体は必ず出席してください。

② プール利用期間は7月6日（土）～8月31日（土）となります。

③ 市外青少年団体と一般団体の宿泊利用は5月16日（木）から受け付けます。

④ 日帰り利用は通常通り、利用日の19日前からの受け付けです。



## 大山街道ふるさと館

JR・東急線溝口駅下車徒歩10分

東急線高津駅下車徒歩5分

☎ 044-813-4705

### ～郷土への愛着と誇りを～

昨年4月、「大山街道を楽しく歩いてみたい」という方たちの声に応じて、起点の赤坂御門跡から終点の大山まで地図中心のガイドブックを刊行しました。地域の方たちだけでなく、県内外の多くの皆様から好評をいただいています。当館ではこれまでも街道資料館としての特色を生かした様々な文化事業を実施してきました。川崎市生涯学習財団とNPO法人教育活動総合サポートセンターの指定管理施設として5年目を迎える平成25年度は、特に地域に根差した事業を充実させていきたいと考えています。



冊子刊行記念シンポジウム

#### —2013年度の主な事業—

- 常設展：大山街道の歴史・民俗・自然等の資料展示（通年）
- 企画展：郷土史家による史料展、地域が創出したカルチャー展（年間2回）
- 文化講演会（年間3回）
- 郷土理解講座（年間2回）
- 街道学習講座（年間2回）
- 郷土学習の支援「ふるさと出前授業」（近隣の小学校）
- 子ども大山街道探検クラブ（通年）
- 活動報告会（年間1回）
- 広報活動の充実（ふるさと館だよりの発行・ホームページの充実）



子ども大山街道探検クラブの活動

## 子ども夢パーク

JR南武線津田山駅下車徒歩5分

☎ 044-811-2001

### 夢パ、オープン 丸10年！

子ども夢パークは、7月13日でオープンしてから丸10年になります。「川崎市子どもの権利に関する条例」に基づき、それを具体的に形にするために、2003年7月にオープンしました。子どもの自由な発想で、遊び、学び、つくり続ける施設として、以下の基本理念を掲げて活動しています。

- ① 「川崎市子どもの権利に関する条例」を実現する場所
- ② 使いながらつくり続けていく場所
- ③ 子どもの自由な遊び、活動がどんどんふくらむ場所
- ④ 子どもの自由な居場所
- ⑤ 学校以外での育ち、学ぶ場所
- ⑥ 川崎市の子どもネットワークの拠点となる場所
- ⑦ 子どもたちが自分で動かしていく場所

2013年度は、10周年の様々な取り組みを行う予定です。

#### (2013年度 主なイベント予定)

- ◆まいにちがプレーパークの日 4/27（土）～5/6（月・祝）火おこし・工具使用可
- ◆夢パまつり祝10周年 7/21（日）オープン記念イベント
- ◆こどもゆめ横丁 11/4（月・祝）子どもたちによる商店街
- ◆10周年記念フェスタ 12/1（日）夢パーク10周年記念イベント
- ◆初夢!新春イベント 1/12（日）もちつき・どんど焼き・書初め・昔遊び
- ◆KUJIROCK 年3回 スタジオ利用者のロックフェスティバル



広場に2013年の干支「巳」を表現!

市内施設の各種取組と当財団が主催する講座等のご案内

情報ポケット

かわさき総合ケアセンター

中原区井田 2-27-1 (川崎市立井田病院内) 武蔵小杉・新城・元住吉・宮前平駅等  
各方面からバス便あり ☎ 044-751-6111

川崎市立井田病院内に設置されている「かわさき総合ケアセンター」は1998年、  
①緩和ケア②高齢者ケア③在宅ケア④地域連携の4つのキーワードを運営の柱として  
発足しました。高齢社会を支える総合的地域ケアの拠点として、緩和ケアや在宅  
ケアを希望する方に、地域との連携を図りながら重層的な支援を行います。病状に  
あわせて、希望の場所で安心して療養できるよう支援します。



《主な機能の概要》

◇**緩和ケア病棟(ホスピス)**：がんに苦しむ患者と家族の苦痛や症状を和らげ、不安な心を支えます。病状が  
進行し治療の困難な方を対象に、その人らしく生きていて良かったと思えるケアを提供します。



◇**在宅ケア・医療相談部門**：在宅で安心して療養できるよう、かかりつけ医や訪問看護ステー  
ションと協力して、訪問診療、訪問看護、医療・福祉相談等を行います。

◇**がん相談支援センター**：地域がん診療連携拠点病院として相談支援・情報提供を行います。

◇**病状評価・ケアプラン**：総合的な病状評価により、患者・家族に適した在宅療養を支援しま  
す。また、かかりつけ医と連携して病状悪化や介護問題に対応します。



◇**教育・ボランティア拠点**：病院内で、介護・案内・園芸・イベント手伝い、図書・緩和ケア  
等にあたるボランティアを受け入れるとともに、ボランティア講座、緩和ケア・高齢者ケア  
に関する研修会や講演会を開催しています。

※当センターは他にもさまざまな機能を持っています。 ■問合せ：☎ 044-766-2188(代)

2013年度 生涯学習財団の主な事業

(公財)川崎市生涯学習財団は市民の皆様の生涯学習の支援や高度で専門的な学習ニーズに対応した学習の場  
を提供するとともに、学校やNPO法人、民間の方々との多様な連携によって事業を展開してまいります。

シニア活動の支援

- ◆生涯学習ボランティア養成講座－シニア世代の豊富な経  
験・知識・能力等を活かして活動するための講座。
- ◆生涯学習ボランティアの派遣－主に学校へ派遣し、教育活  
動を支援。
- ◆シニア活動シンポジウム
- ◆地域協働講座－シニア活動を支援するための「福祉」「企  
業連携」等の講座を開設。

生涯学習活動の支援と提供

- ◇かわさき市民アカデミー協働事業
- ◇健康・体力づくりスポーツ教室－ 太極拳・ヨガ・エアロ  
ビクスなどのスポーツを通して、健康な心と体づくりが行  
える教室の開設。
- ◇文化・生活教室－陶芸・俳句・園芸など、趣味や教養につ  
ながる幅広い教室の開設。

生涯学習情報の収集と提供

- ◇生涯学習情報の収集・整理・提供、学習相談の実施、ホー  
ムページの充実、生涯学習情報誌(紙)の発行－Stage Up  
(年6回発行)、かわさきの生涯学習情報(通称KSJ 年8  
回発行)
- ◇ふれあいネット人材・グループ情報の収集と提供
- ◇教育人材ガイドの発行と学習情報の提供

青少年活動の支援

- ◆ふれあいサマーキャンプ  
－小中学生対象。友好関  
係のある自治体と交流し  
た豊かな体験活動の展開。
- ◆青少年創作活動
- ◆たのしいキッズセミナー
- ◆キッズ陶芸体験



あ と が き

平成12年の子ども読書年を契機にスタートした「読書のまち・かわさき事業」推進の一翼を担っている  
のが、地道な取組を続けている図書館ボランティアの人たちである。1月下旬、高津市民館でそのボランティアや市民を対  
象とした研修会があった◆児童文学作家今西乃子(のりこ)さんによる講演の演題は『命について考える』。飼い主に捨てられ、  
殺処分される犬たちの運命を迫真の写真を交えて紹介しながら、命とは何かを訴え、ひとの命の尊さに迫った◆同じ重さである  
はずの命が、育てる人・飼う人によって変わってよいはずはない。今西さんの「人は、生き物は、幸せになるために生きて  
いる」という揺るぎない思いに共感した◆今西さんは「誰かを傷つけることは自分を傷つけること、誰かを救うことは自分を  
救うこと」とも語っていた。全国で、様々な形でボランティア活動に励む人たちの思いにもつながっているように感じた。

カラダに、  
レモンの元気を。



キレイと元氣  
**キレトレモン**

ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社  
<http://www.pokkasapporo.com/pk/lemon/>

## 生涯学習プラザ 会議室等利用のご案内!!



生涯学習プラザは皆様の学習や文化活動を支援する生涯学習の場です。会議、研修、スポーツ、音楽、サークル活動などにご利用いただけます。203活動室・302多目的ルーム・402フィットネスルームは、下記のようにご利用になる月の3ヶ月前に抽選を行っています。また、会議室・活動室は3ヶ月前の抽選日の翌日の8時30分から予約を受け付けます。

※8時30分からは来館の方のみ、電話での仮予約は9時から!

仮予約をされた方は、3日以内に当プラザにてお手続きをお願い致します。メールでのお申込みは、3ヶ月前の抽選日の翌々日です。休館日等、詳しくは、受付や電話でお問い合わせいただくか、ホームページ・チラシをご覧ください。

抽選会日				一般予約開始日			メール予約開始日		
H25年	4月2日	火	7月分抽選	4月3日	水	7月分	4月4日	木	7月分
	5月1日	水	8月分抽選	5月2日	木	8月分	5月3日	金	8月分
	6月3日	月	9月分抽選	6月4日	火	9月分	6月5日	水	9月分
	7月1日	月	10月分抽選	7月2日	火	10月分	7月3日	水	10月分
	8月1日	木	11月分抽選	8月2日	金	11月分	8月3日	土	11月分
	9月2日	月	12月分抽選	9月3日	火	12月分	9月4日	水	12月分
	10月1日	火	1月分抽選	10月2日	水	1月分	10月3日	木	1月分
H26年	11月5日	火	2月分抽選	11月6日	水	2月分	11月7日	木	2月分
	12月2日	月	3月分抽選	12月3日	火	3月分	12月4日	水	3月分
	1月6日	月	4月分抽選	1月7日	火	4月分	1月8日	水	4月分
	2月3日	月	5月分抽選	2月4日	火	5月分	2月5日	水	5月分
	3月3日	月	6月分抽選	3月4日	火	6月分	3月5日	水	6月分

川崎市中原区今井南町514-1 TEL 044-733-5560

HP検索

「川崎市生涯学習プラザ」